

11月19日は『ワールド・トイレット・デー』国連が決議

Toilet Topics 

第 67 回国連総会において『11月19日＝ワールド・トイレット・デー (World Toilet Day)』が定められました。

これは、シンガポールに拠点を置く「世界トイレ機関(WTO)」が世界的なトイレ環境の水準向上を目指して制定し、それを国連が認定したというものです。

2012年に世界保健機関が公表した情報によると、世界の推定人口の約2/3にあたる25億人は、衛生的なトイレ環境で生活ができておりません。11億人はとてつもなく構わず大小便をしています。不衛生な環境は病気を蔓延させ、それが原因で死亡につながることがあると指摘しています。

ワールド・トイレット・デーには、世界のトイレ事情を考える、自宅のト

イレを掃除する、トイレをキレイに使う事を心がけるなど、トイレについて考える日にしたいものです。

ちなみに11月19日は「世界トイレ機関の創設日」「世界トイレサミットの開催日」にあたる為、その日が制定されました。



日本トイレ協会の定める「トイレの日」は
11月10日(いいトイレ)

参考：世界トイレ機関HP
<http://worldtoilet.org/wto/>

ハネオくん 

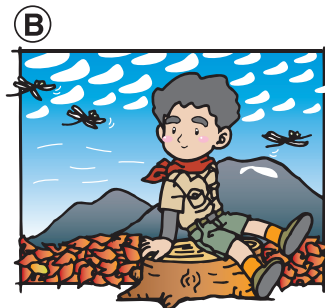
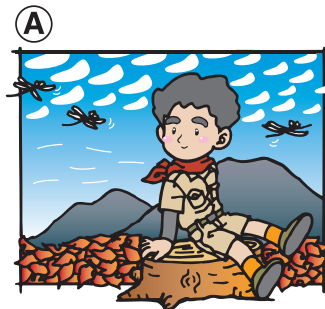
間違！探しクイズ！

AとBのイラストに違うところが5箇所あります。

秋を楽しむためにハイキングへ出かけたハネオくん。切り株に腰掛けて充電完了！

今回の難易度
★★★★☆

正解は編集後記の下に掲載しています。



主婦ライター・水仙の水に流せない“廁”論

第4回 ホンマでっか!? 男性の「座りション」がもたらすおしっこ問題。

私が好きなテレビ番組「ホンマでっか!?TV (フジテレビ系)」で、マーケティングの牛窪恵さんが先日こんなことを言っていました。「最近、座っておしっこをする男性が増えています。座すると



大事な部分を不自然に折り込むので、おしっこが少し膀胱に残ってしまい、排尿障害を起こす男性が増えているんですよ!」

え〜、それは困る!なぜならわが家、夫も息子も自宅では座りション派。決して強要したわけではありませんが、お掃除がラクなので内心助かっています。でも、わが家の男性陣が排尿障害になるのは忍びない…。

そこで、その真偽を確かめようと関連するデータがないか探し

てみました。例えば、2009年のTOTOの調査では、自宅のトイレで座って小をする男性の割合は全体の33.4%。男性の3人に1人は座っています。

排尿障害とは、「尿が出にくい」「尿が漏れる」「頻尿」「排尿時痛」などの症状のこと。牛窪さんの話は、「尿が漏れる」という症状に当てはまりますが、座りションが排尿障害を引き起こすという科学的なデータは見つかりませんでした。「ホンマでっか!?」の域を超

えない情報なんですわ。

というわけで、半信半疑ながら「立ってしてもいいよ」と夫に言ってみました。久しぶりに洋式便器で立ちションをした夫の感想は、「狭いし、汚さないように気を使って疲れる。座ったほうがラク!!」。昔ながらの日本男児には「男の洁券に関わるぞ!」とお叱りを受けそうですが、今時の男性は洁券よりラクな方を選ぶのかもしれませんね。

※出典：「ご自宅のトイレに関するアンケート」(2009年TOTO調べ)



水仙 美樹

アメニティに約10年間勤務したのち、第二子出産を機に退職。一念発起して、フリーライターの道へ。現在は主婦&ママの視点から地域やアートなどの情報を発信中。トイレウォッチも大好き!

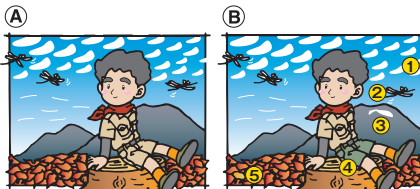
編集後記

トイレの4Kといえば「臭い」「汚い」「怖い」「暗い」。これは今も昔も変わりませんが、アメニティではトイレの新4Kを基本理念に掲げています。「教育：トイレから教育を考える」「経済：トイレから経済の発展を支える」「健康：トイレから健康問題に挑戦する」「環境：トイレから環境を守る」。今回の「まち探検」では、トイレ教育を実践する良い機会となりました。(雄撃弾治)

ハネオくん 間違！探しクイズ!

こたえ合わせ

1. 雲の数
2. トンボの位置
3. 山の陰
4. ズボンの色
5. 落ち葉の色



トイレ診断士の厠堂本舗



▲男子トイレ



▲多目的トイレ

アメニティネットワーク本部の(株)アメニティには、「トイレ診断士の厠堂本舗」と名付けた公衆トイレがあります。

このトイレは、より多くの方が快適に使えるトイレを目指して、2012年12月にオープン致しました。男子トイレ・女子トイレ・多目的トイレから構成され、ベビーチェアやフィッシングボード、オストメイト対応シンク

の設置から、車椅子の方も利用しやすいスペースも確保しています。

トイレは公衆トイレとして提供するだけでなく、全国のアメニティネットワークのスタッフが、トイレ診断やトイレ管理の技術を磨く研修場としても利用しています。最近では、地域の小学生のトイレ学習の場としても利用されました(下記参照)。

ちなみに「トイレ診断士の厠堂本舗」という名称は、現在ネーミングライツ契約をしている公衆トイレ「渋谷区役所前トイレ診断士の厠堂」「新横浜駅前トイレ診断士の厠堂」「京都東山トイレ診断士の厠堂」の本舗として位置付け、命名致しました。

全国へ広がる「トイレ診断士の厠堂」近くへお寄りの際は、是非ご利用ください。

小学3年生90人が雪隠拝見 トイレの新4K～トイレから教育を考える～

7月某日、横浜市立羽沢小学校3年生の児童90人が、「まち探検」と題して、アメニティ本社に訪れました。まち探検は、自分たちの住んでいる町を知る

事を目的に、町内にある施設や企業などを巡る授業です。

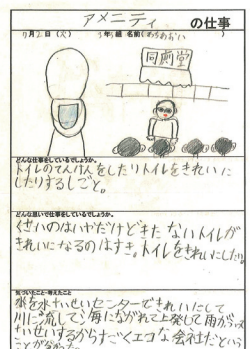
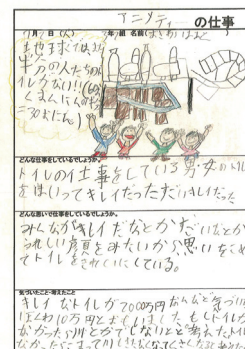
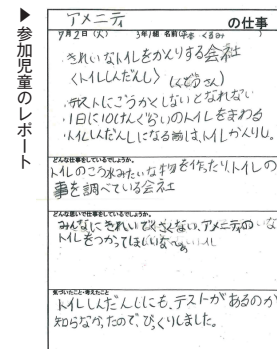
アメニティ本社では、「トイレ診断士の厠堂本舗」の見学や、トイレ教室などを開催し、世界

のトイレ事情、配管の仕組み、和式トイレの使い方などを学びました。参加した児童からは、「もしもトイレが無かったら川が汚くなって困る」「世界に

はトイレの無い生活をしている人がいることを知って驚いた」などの感想が上がり、トイレを通して環境や世界のことを考える時間となりました。



▲トイレ教室の様子



文献に学ぶ「トイレ文化」



このコーナーでは、「トイレ文化」に注目し、トイレに関する興味深い文献をご紹介します。

第5回

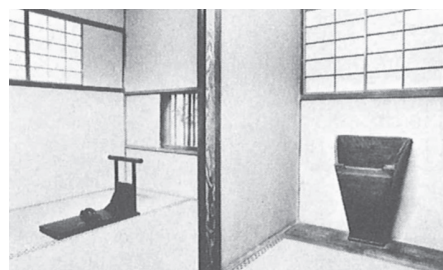
戦国時代の便所

武田信玄は6畳敷の便所で戦略を練った

戦国大名には、意外に便所に関するエピソードが多く残されている。

三好長慶といえば、家臣でありながら室町幕府12代将軍・足利義晴を追放し、13代将軍・義輝をロボットのように操って権力をほしいままにし、戦国時代における下剋上の典型的な人物といわれている。その彼が権力の絶頂にあった永禄4(1561)年、息子の三好義長(義興)邸に将軍の御成りがあった。この時、西浄(便所)、小便所、湯殿等が新造されたが、西浄の内部には棚が設けられ、その上に奈良紙が置かれ、紙鎮めには杉原で包んだ石が使われ、手水用の桶と杓は黒漆塗で蒔絵が施されていた。書院造風の格調高い建築構造が想像できる。幕府の実権を握ったとはいえ、守護の被官から身を起した三好家としては、將軍家の権威を自らの飾りものとするために、便所ひとつにも記録に残るような格式高いものを造る必要があったのであろう。

「風林火山」の旗印で有名な武田信玄にも便所に関するエピソードが伝えられている。『甲陽軍鑑』という甲州流軍学書によると、信玄の



▲三溪園臨春閣の畳敷便所(撮影 京極寛)

御閑所(便所)は、刺客からの難を避けるため京間6畳敷という広いものであったことがわかる。そして室内には香爐を置き、朝・昼・晩と家来を輪番させて香の薫りを絶やさなかったというから、信玄ほどの武将になると単に勇敢だけでなく、平素のたしなみにも気を配っていたわけである。この便所、風呂屋の縁の下から樋をかけて、余り湯を利用して不浄を流すという一種の水洗式であったことも面白い。

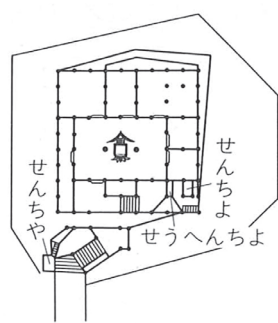
信玄はこの御閑所を愛用し、諸国から送られてくる書付を閲覧して実否を判断したという。おそらくかの川中島合戦の秘策も、この中で練られたにちがいない。彼はこの御閑所に「甲州山」という愛称までつけていた。この名の由来について信玄自身はついに語らずに没したが、後世の説によると「山にはくさき(草木・臭き)が絶えぬ」とか「におう(荷負う・臭う)もの絶えず」という駄洒落であったらしい。

他に便所の構造は不明ながら、仙台の伊達政宗は廁上読書の達人であったといい、また熊本の加藤清正は便所で高さ1尺(30cm)の高足駄を愛用したという。いずれにしても、群雄割拠の乱世を生きぬいてきた彼らは、日常生活においては世間と隔絶された孤独を愛したようで、そこに便所の意匠や構造に凝った理由があったのであろう。

名城の天守にもうけられた便所

『私の城下町』という歌が流行したのはもう一昔以上前の話だが、日本人はお城のある風景に何かしら郷愁を感じる。お城といえはひときわ高くそびえたつ天守を連想する。そこで天守の便所にまつわる話題を提供しよう。

まず天守のはじまりといわれるのは、織田信長が築いた安土城である。今から400年ほど前の天正7(1579)年に完成したが、わずか3年後、山崎合戦で敗走した明智軍の放火にあって焼失し、幻の名城になってしまった。近年、内藤昌博士が安土城のものと考えられる「天守指図」を見出され、外観5層・内部7階の詳細な天守復原図を示されて話題になった。それによると安土城天守の便所は3つあり、門を入ったところに「せんちや〈洗所〉」が1つ、そして地階東北隅に「せんちよ」と「せうへんちよ(小便所)」が設けられていた。信長は天守の3階に常住していたから、いちいち地階まで降りていって便所を使ったわけで、彼にとっては便利な場所にあったとはいえなかったようだ。



▲安土城天守指図

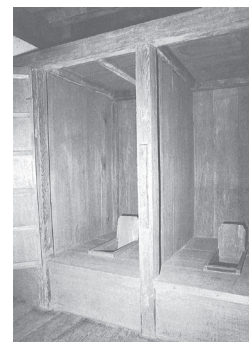
現存する天守の最高峰は、姫路城天守であろう。日本の城郭史上、最盛期の遺構で、慶長14(1609)年に完成し、その美しい姿から「白鷺城」

の異称をもっている。外観5層、部穴蔵1階、石垣上6階の大天守を中心に、東・西・乾の3小天守があり、渡廊で相互に結ばれて天守群を構成する。便所は大天守地階の東北隅と、西南隅の階段下の2カ所に設けられる。構造はそれぞれ3連式で、周囲および各間仕切は板壁、出入口は片開き板戸を肘壺で吊り、内部には木製のきんかくしがあって、下には大きな壺が埋め込まれている。姫路城の便所は、大天守西北隅に接続する台所の存在とともに、いざ籠城という時の軍事的備えから設けられたと考えられる。もし天守が包囲されたら、石落しの口を開けて、大壺に貯め込んでいた排泄物を敵兵めがけてザブリ、などという戦術が考慮されていたのかも知れない。

つぎに加藤清正によって慶長10



▲姫路城天守外観



◀姫路城大天守地階便所

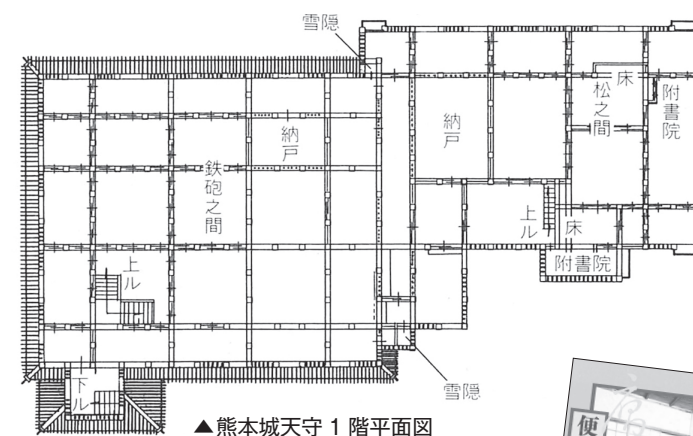
(1605)年頃に完成した熊本城天守。外観5層、内部穴蔵1階、石垣上6階の大天守は、外観3階、内部穴蔵2階、石垣上4階の小天守を従え、ダイナミックな構成美を誇っていたが、明治10(1877)年の西南の役で焼失し、現在のものは昭和34年に外観復原されたものである。焼失前の熊本城天守の内部は、古図や記録によって復原されているが、それによると、大・小両天守は南北方向に食い違って連なっており、雪隠は石垣上1階部分、両天守の東と西の接点に3カ所設けられている。そのうちの東側の雪隠は、石垣から外へ張り出しており、珍しい空中便所になっていた。中世ヨーロッパの城の便所は、外壁から張り出した囲いの中央に丸い穴をあけただけの構造で、排泄物は外濠や森の中に直接

たれ流していたが、熊本城の空中便所もおそらくそれと同じ構造であったのだろう。

このように慶長年間までに建てられた天守には、便所が備えられていた。しかし江戸時代にはいつて平和な時代が到来すると、天守は次第に実戦の用途を失ない、飾りものになってくる。それとともに大名の居住空間は本丸の御殿に移るので、天守の便所は姿を消してしまうのである。



▲熊本城大天守外観



▲熊本城天守1階平面図

[出典] 便所のはなし(16-22頁)
発行所: 鹿島出版会
著者: 谷直樹・遠州敦子
発行: 1986年12月25日(第1刷)

